第 2015-05 号

恵みと真理のニュース

2015 年 2 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様は異端を従い偶像崇拝をした私を暗い世界から救ってくださり、教会学校で真の神様の愛を教える幸せな使命者として変えてくださいました。

ハレルヤ！私の魂を救ってくださり、彷徨する青少年達を神様の御言葉と愛で教え守る教会学校の教師として特別な献身するように導いてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。
私は真実な神様を知らなくて偶像崇拝をした家庭で生まれ育ちました。母方は統一教で本家はナンミョホレンケ教を信じる家庭でした。私も親を従って偶像崇拝をして青少年の頃は異端の集団で学生部教師もしました。青年の頃は友達をついて“救いの派”という異端の集団でも行ってみました。その当時は異端という用語さえも知らなかったです。聖書も21歳の時に初めて接しました。
そんな私を神様は愛し暗い勢力から救ってくださいました。まるでアブラハムを選んで愛し今まで住んでいたカルデアのウルを離れカナアン地に導いたように、主は先に私を愛し選んで祝福ある道に導きました。
　私は職場を通っているときに腰のヘルニアで手術を決定してブピョウンにある病院で入院しました。手術をする前なので心が不安で祈りたかったです。ちょうどその病院で定期的に牧師が礼拝を導く礼拝室がありました。中に入ったらまるで母の懐のような和やかで暖かい雰囲気でした。今まで様々な異端の集団では感じられなかった平安でした。その切っ掛けでイエス様を信じるようになりました。健康が回復され病院教会で熱心に患者と家族を仕えました。そして結婚をしてアンサンで引越して1997年から恵みと真理教会の聖徒になりました。平日礼拝を参席して当会長牧師の聖書講解と説教を聴き深く聖書を学ぶ事ができました。主日には恵みある説教を通して神霊の慰めと平安を得て信仰が成長し霊肉共に力を得ました。“あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。”（ヨハネの福音書8：32）は御言葉の恵みと権能が望みました。礼拝を熱心に捧げ神様を畏れ委ね愛する幸せを感じるようになりました。
神様は清い救いのため献身するように職分と使命を与え、マレイシアの宣教会の委員と聖歌隊員で奉仕するようにしました。2008年私が海外宣教を帰って来た後、神様は他の職分をくださいました。私を滅びる道から救ってくださり愛と恵みで導いてくださいました。御言葉の知恵と能力と勝利して生きるようにしてくださった神様を子供達に伝える希望が出来ました。教区長に教会学校で奉仕したいと言うと高等部で奉仕することを進めました。
さて教師で奉仕してみたら様々な事が足りなくて弱い私がどうやって担えるか心配になって祈りました。すると神様は“語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス.キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と力とが、世々限りなく神にありますように、アーメン。”（ペテロの手紙一　4：11）という御言葉で励ましてくださって使命をもっと与えられました。
教師で奉仕しながら神様の恵みと摂理をたくさん感じ見ることができました。驚くことは苦難のときことに“私は出来ないので主よ助けてください”とその時は万事が益となるように共に働くことを経験しました。神様は組み別に御言葉を教え学生達と礼拝で受けた恵みを伝え勧め教えるすべてのことを責任して導いてくださいました。
私の一番大きい悩みは高等部1年生達を相手とすることです。対話をしたくて言葉を書けるとあまり話さなくて親密感を表したくて方を触ると神経が鋭く反応してとても嫌がいました。私の子供がまだ小学生でこの青少年の心理と反応が良く理解出来ませんでした。このことが繰返してどうしたら良いのか分からなくて高校生の子供を持ち区域長と話して祈りも願いました。首区域長の一人が私に学生時代を良く顧みると勧めました。学校に通うときより今の子供達は勉強と進路、友達、親の関係などストレスを受けています。個人主義を煽る世俗的な文化の中で生活をしていることを考えて私も青少年の真理と相談に関連することを勉強しました。教師セミナと講習会にも時ごとに大きい助けになりました。一人一人学生の名前を呼びながら神様の子供のような製品で変化するように祈りました。そして、個人の性向と環境に合わせて接したら子供達も条々に心を開き私に様々な相談をして祈りを願うほど関係がよくなりました。
　そのように変化され成熟していく子供達をみると限りなく愛しくて殊勝でした。特に教会キャンプに行くと聖霊で満たされ大きい声で叫びながら祈り、楽しく賛美する姿に私がもっと恵まれました。聖霊の洗礼を受けた学生達が神様に感謝し奉仕する姿を見ると“あ！この子供達がこれから私達の教会の柱となり神様の国のため大きい働き者となると思いました。”教会の教師として仕え忍耐し献身するように導いてくださった神様に感謝を捧げます。もっと感謝する事は学生が高等部を卒業をして青年になり若さと生き生きした信仰で教会の所々の期間と部署で熱心に奉仕して献身する姿を見ると言葉で表現できないほど心が熱くなり嬉しいです。教師で奉仕しながら楽しい事がまたあります。当会長の牧師が私達の聖殿で来られ祝福盛会を導く時には委員教師と共に牧師に会い部署と運営について決済を受け報告をする一方牧師から祝福祈りを受ける事が大きい力となります。ハレルヤ！
　神様の摂理と導かれ最近、中等部で移して総務教師で仕えています。中学生達は思春期を過ぎる時期なので奉仕するのが難しいです。しかし、神様が与える知恵と能力を委ね熱心に仕えています。今までは足りない私が霊的な訓練を受ける期間でしたら、これからは成熟な教師になることを願います。使命にもっと忠実な教師、御言葉を従順する教師、学生達と運命を共にする教師、イエス様の中心の働く教師、この時代と教会が求める真な教会学校の教師になることを切に願います。そして、教師だけでなくこの最後の時代にイエス様をもっと愛し集まることに力を入れ熱心に福音を伝え福音の香りをする聖徒になることを決心します。そして、神様の助けを願いながら祈ります。私の魂を救ってくださり仕える楽しむことも与えてくださった神様にすべての栄光を捧げます。

［信仰コラム］　戻 る 人 た ち

″彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。…″(ヘブライ人への手紙　11:15、16)

天国に入るが、必須の要件に悔悟です。 悔悟は罪を許すことと命を得ることにして救援に至るようにします。 悔悟という後悔するのではなく、神様を背いた人生を生きる者が方向を完全に振り返って神様に向かって進むことです。 イエス・キリストを信じる人を違って、言って輝く日ともに帰ってきた人だと言うことができます。 こんなに方向転換をした人になってくれれば戻ることはいけません。
第一に、神さまへ来た人たちが世の中に戻った理由が何かを見てみます。
その原因は、大きく 4 つに分けることができます。
第一、恐怖を克服できず、世界に戻る人がいます。 出エジプトしたイスラエルの子孫 1 世代がその手本です。 当面した今日と明日の問題によってとても恐れてはいけません。 どのような逼迫や苦境に直面しても恐れて震えていないでそうなればなるほど、神様の言葉を固く味方につけなければならないです。 第二に、神様を仕えることを荷厄介に思い込むために戻る人がいます。 これは彼が輝く日を正しく知らなかったという証拠です。 信仰生活による喜びと平安そして甲斐のようなものを分かっていないためです。
第三に、神様の話を聞いてもその恩恵と真理を悟ることができないために世界に戻る人がいます。 その大きな理由は、自分の固定観念を捨てることができないためです。 聖書がどうやってするかを聞こうとせず、自分の知識の枠組みに聖書を入れようと、合わせと苦心を書いてみたら'聖書が難しい、無味乾燥する、時代に劣っている。'などの話をしながら戻ってしまってしまいます。 第四に、世の中の誘惑を耐え切れず、戻る人がいます。 世の中の誘惑がどれほど強烈なのかを教訓している非常に短い聖書のくだりが″ロックの妻を考えなさい。″(ルカによる福音書　17:32)という一節です。 世の中の甘い誘惑の手を振り切っず、その誘惑に引かれて手の取れば、その時から教会に通っているのが退屈で、注意仕事をすることにいらだちます。
第二に、どんなことがあっても戻らない聖徒らに見られる共通的・基本的な信頼に関して説明します。
第一に、十字架を背負られず死んで墓で復活したナザレのイエスだけが罪人を救う救世主ではなるという信頼を確固に持っている聖徒は戻りません。 宗教多元主義や混合主義を受け入れれば、彼がなんと言っても戻って行ってしまった人です。 第二に、主イエスキリストの神様を仕えることを人生の最も大きな価値と所得と考えて、最も大きなやりがいだったと栄光でここは人は戻っていません。 物質、権勢、才能その何でもそれを神に仕えるの道具として、たとえこのようなものが不足したり、なくても何も言わずに神様に仕えます。
第三に、わが主イエスが予備した天国に入ることを最終目標として生きている人は戻っていません。 アブラハムの生活態度は立派な手本になります。 神様は、このような信頼として生きる者たちを非常に喜んで、彼らのために城を予備したとしました。(ヘブライ人への手紙　11:9、10)
飛行機が長距離を飛行することになる場合、逆止め支店があります。 制限された燃料事情のためです。 どの地点を過ぎたら戻ることがあっても戻ることができません。 燃料が不足して途中で墜落するためです。 そのまま行かなければなりません。 聖徒になった皆さんは世界に戻る極めて不幸な人にならないように願います。 イエス・キリストを信じたその日から逆止め地点を通過したものと知って天国に入るまで前進、また前進することを望みます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

受けるさいわいと与えるさいわい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

新年に迎えれば相手先によくできるように祈る言葉やあいさつをします。 これを徳談と言います。 一番に含蓄性を持った徳談は “さいわいたくさん受けてください。” です。 ‘さいわい’という単語の意味を国語の辞典には簡単に解釈されているが多くの側面で説明をするためにはあまり簡単ではないです。 今日は聖書の本文に関して “受けるさいわいと与えるさいわい”に対してよく見ます。

第一は、受けるさいわいに対してよく見ます。

神様が天地万物を創造する時に最も終わりに人を作りました。 人の生存に必要なすべてのものをまず作りました。 だから神様の助けを受けないで暮す人は一人もないです。 そして神様が人は他人の助けを受けながら暮すようにしました。
コリント人への第一の手紙 4 章 7 節に “いったい、あなたを偉くしているのは、だれなのか。あなたの持っているもので、もらっていないものがあるか。もしもらっているなら、なぜもらっていないもののように誇るのか。”と言いました。 人が受けたことの中に神様がくださることをしのぐことがないです。 神様が私たちにくださることは無限に多いです。 神様が恵みでくださるものなどを人々が享受するために神様はそのすべてのものを聖書に記録しておきました。 そして聖霊がそのすべてのものを私たちにとって分からせます。 “ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。”(コリント人への第一の手紙 2:12) しました。 神様がくださるものなどは信仰で受けることができます。 そして神霊な恵みをくださる神様に対して私たちが取る一番礼儀の正しい態度は感謝する心で受けるのです。 このような事実が分からせてくれる劇的な話があります。イエスキリストが聞かせた二人の息子と父に対する話です。
ある父に息子二人がいるがある日次男が父に言うのを “お父さん、財産の中で私に帰って来る分け前を私にください” しました。 次男は遂に固執して財産を受けて遠い国に発ちました。 彼は一間自由を満喫して虚浪放蕩した生活をしました。 いくら経って持ったのがすべて消えてしまいました。 弱り目に崇り目で大きい凶年が来ました。 彼は豚の飼う事をするようになったが飢えを免れにくかったです。 彼は父の位に帰る決心をして家に向けました。 息子を毎日待った父は帰って来る息子を一目に調べて息子を向けて駆け付けて首を抱いて口を合わせました。そして父はしもべを呼んで指示しました。さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさいまた、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。
食べて楽しもうではないかこのむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから』それから祝宴がはじまったところが、兄は畑にいたが、帰ってきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』と尋ねた僕は答えた、『あなたのご兄弟がお帰りになりました無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなさったのです』兄はおこって家にはいろうとしなかったので、父が出てきてなだめると兄は父にむかって言った、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さったことはありませんそれだのに、遊女どもと一緒になって、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました』すると父は言った、『子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだしかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである』長男が父をまことに分かったらいつも宴する楽しさを持って暮したはずです。
神様はイエスキリストにあってすべての神霊な恵みを豊富にくださるのです。あなたの口を広く開きなさいと言いました。 何でも求めなさいと言いました。 信じないことと求めないよりもっと悪い弊端はないです。 神様がくださるものなどを受けることも時があります。 コリント人への第二の手紙, 6 章 2 節に記録されるのを “神はこう言われる、「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。” しました。神様は私たちに時に付いて助ける恵みを得るために恵みの宝佐の前に大胆に出て来なさいとおっしゃいます。 皆さんは人からも神様からも受けるさいわいを一杯受けて享受するように願います。

二番目は、与えるさいわいに対してよく見ます。

私たちが他人に施すことができることには物質的なことだけではなく精神的なことと霊的なことがあります。だから他人に与えることがない人はいないです。 この次元から取りまとめておっしゃって差し上げます。 第一、大目でやることができます。 寛容のない社会は不協和音と争いがひどくなります。寛容するためにはお互いに違うことを認めなければなりません。 多様な気質と性格を持った人々が集まって住むのが人間社会です。 自分の性格が標準になれないから他人を私のようにならせようと思わなくてお互いに寛容して調和を成すように努力しなければなりません。 寛容が施されれば、多様な性格の人々が集まった組織と社会が美しいです。 第二、自分が持った有益な知識と知恵を提供することができます。 さいわい音を伝えることは一番偉大な知識と知恵を提供する事です。 第三、自分が持った社会的能力を使って難しに処した人を助けることができます。 第四、ひまを取って身で奉事することができます。 五番目、所有物で助けることができます。 六番目、祈祷で助けることができます。
使徒パウロは言うのを “わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである」。”(使徒行伝, 20:35)しました。
他人の助けてあげるのがさいわいである、与えることはもっと大きいさいわいです。 施す事をするにも適用しなければならない原則があります。 イエスキリストがおっしゃるのを “あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。それは、あなたのする施しが隠れているためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。”(マタイによる福音書 6:3,4) しました。 自分の誇示のための目的に行う救済は賢くないです。 “神様の光栄のためにしなさい。 神様を嬉しくするためにしなさい。” この言葉は他人に施す事にも適用されなければならない原則です。 このような目的に行う慈善と救済は神様に差し上げることで見なされます イエスキリストがおっしゃるのを “この子一りにしたことがすなわちわたしにしたのである” しました。
神様に差し上げる事は私たちに与えられる大事な機会です 神様に差し上げることを楽しく行う人は差し上げるさいわいがいくら大きなさいわいなのかを知り合いです。 神様に差し上げる正しい態度に対しても二つ要点が聖書に明示されています。 第一、楽しんで差し上げなさいと言いました。 “各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。”(コリント人への第二の手紙,9:7) しました。 第二、勢いよく差し上げなさいと言いました。 エルサレム教会が飢饉によって困難を経るようになった時に使徒パウロは異邦教会に後援献金をするように訴えました。 するとマゲドニア教会が積極参加しました。 その事実に対して記録するのを “わたしはあかしするが、彼らは力に応じて、否、力以上に施しをした。すなわち、自ら進んで、聖徒たちへの奉仕に加わる恵みにあずかりたいと、わたしたちに熱心に願い出てわたしたちの希望どおりにしたばかりか、自分自身をまず、神のみこころにしたがって、主にささげ、また、わたしたちにもささげたのである。”(コリント人への第二の手紙, 8:3～5) しました。
皆さんは他人に手助けになることに対していろいろと考えてください。 日増しに神様にもっとたくさん差し上げることができるのを願ってください。 他人に手助けになって、神様に差し上げる人になることがあります。 第一、心が寛大で余裕のあるようになります。 第二、神様がくださる楽しみがあります。 第三、神様がくださる約束があります。 “与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから」。”(ルカによる福音書, 6:38)と約束です。

皆さんは多くの人から助けを受けることを楽しんで心から感謝してください助けを受けるのがさいわいです なによりも神様の助けを求めて享受してください。 これは大きいさいわいです。 力をつくして他人に施しながらこれを楽しんでください。 これがさいわいです。 なによりも神様に差し上げるのを力をつくしながら楽しんでください。これは大きいさいわいです。
皆さんに受けるさいわいと与えるさいわいがますます加えられるように願いします。